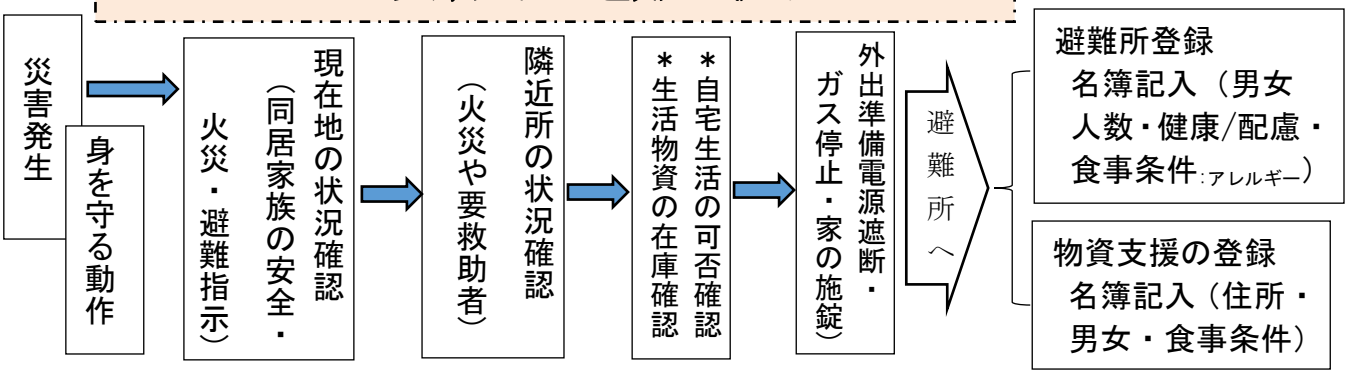
８．災害時の避難の流れ



避難所は収容人数が限られており、プライバシーを守ったり感染症防止も難しいので、「避難所に入れない」かもしれないということを想定しなければなりません。被災したが家に住めるなら「在宅避難」が望ましいです。在宅避難のポイントを「安全」「食料」「衛生」についてまとめてみました。

在宅避難のチェックポイント（別紙「非常時に必要なものは」も参照）

項目		チェック事項	確認	対処方法など
安全	周囲の状況	電線が垂れ下がっていないか		→ 中部電力に連絡
		家屋周囲の状態は安全か		※ 倒木･がれき･陥没など → 市役所に連絡
		周囲の住民に救助を求める人はいないか		→ 近隣住民で救助困難なら → 最寄り避難所･市役所に連絡して応援を呼ぶ
	建物の外観	ガス漏れ･火災はないか		→ 東邦ガス･消防署･市役所に連絡
		建物は傾いていないか		→ 市役所に連絡
		建物に大きなひび割れはないか		※「応急危険度判定士」の判定があれば従う
		窓ガラスなど危険な落下物はないか		→ 別紙「被災建築物応急危険度判定制度」参照
	建物の内部	通路は確保できるか		※ 屋内へは靴を履いたまま入る
		倒壊や倒れ掛けの家具はないか		※ 安全なスペースを確保する
		物が高所,壁から落ちかけてないか		※ 安全な場所で家族が集まって生活する
		戸･扉･窓など開口部の確認		※ 余震に備え逃げ道を確保しておく
	ライフライン	ガス臭はないか		→ 窓開放･ガス栓を閉める『**通電不可！**』
		上下水道は使えるか		→ 浴槽の残り湯など中水の利用
		電気は復旧できるか		→ 別紙「地震後のブレーカーの復旧」参照 ※ 必要のない器具のコンセントは抜いておく ※ 地震がおさまっても直ぐに電源を入れない
	情報	ラジオ･テレビ･PC.･携帯･電話		･充電に備えて携帯のケーブルも準備
食料		食べられる食品を集め整理する		→ ローリングストックで備蓄 ＊日常生活で消費する食材などを、ある程度多めに備蓄しておいて使った分を常に補充する方法 ＊調理の水･燃料も相応に準備する → 冷蔵庫の開閉を減らし冷蔵品を延命 → 避難所へ「避難所登録」申請
衛生		加熱手段はあるか		※ ガス･電気･コンロ･薪･七輪など
		飲料用･調理用の水はあるか		→ 不足なら避難所で貰う
		トイレは使えるか		→ 不可なら別紙「簡易トイレの使用手順」
その他		損害証明の写真撮影はしたか		※罹災証明･損害保険のため損害状況撮影

※ 日常備蓄・建物の耐震化・家具の転倒防止など災害への備えが大切です。

9. 緊急災害予想時、中部地区一時待避所開設のお知らせ

災害・危険発生！その前に地区委員・自主防災会に、ご一報を！

刈谷中部地区委員会
刈谷中部地区自主防災会

台風・大雨等の災害の発生が予想され、刈谷中部地域内の刈谷市指定避難所（亀城小学校・刈谷北高校・刈谷高校）が開設されていない時点での刈谷中部地区委員会・刈谷中部地区自主防災会の対応について

a）以下のような場合、地域住民皆様からの要請、地区、自主防災会の判断等により中部市民館を住民一時待避所として開設します。

1）住民一時待避所開設要件

① 洪水等で浸水の恐れがある、また住居が老巧化等で暴風雨被害が出そうな場合。

② 一人暮らし、要介護、要支援者、老人のみの世帯等で緊急な場合、不安や適切な支援が受けられないと予想される場合。

③ 居住場所での滞在に不安のある場合。

④ 地域に避難準備情報等が発令されても、地区関連避難所（亀城小学校、刈谷北高校、刈谷高校）の開設がない場合。

⑤ 地区委員会（地区長、組長等が各町内の状況により判断）、及び自主防災会が必要と判断した場合。

⑥ その他、上記に準ずる場合。

＜住民一時待避所開設要請の方法＞

【 危険を感じたらまずは地区委員（地区長、組長）及び、自主防災会に連絡。】

ご連絡を受け、対応を協議し以下のようなご連絡を申し上げます。

回答例　・刈谷市の〇〇避難所が開設しています。

・中部市民館を住民一時待避所として開設します。

・要介護、要支援者に対して：「移動の車を手配します。」 など

b)待避者への要望（出来れば以下の物は持参して来て下さい。）

1）常用の医薬品、コンタクトケア用品等、個人だけで使用するもの等。

2）スマホ、携帯電話等とその充電器等。

3）乳幼児がいる場合のミルク、哺乳瓶、離乳食等。

4）当面の食料等

※　刈谷中部地域内の刈谷市指定避難所（亀城小学校・刈谷北高校・刈谷高校）が開設された場合、状況を見て希望避難所にお送りします。

10. 避難のタイミング

避難の判断によって、生死が分かれる場合があるということを覚えておきましょう！

人任せにせずに、現在地の状況（火災や避難指示など）を確認
ラジオ・テレビ・携帯電話などの情報
行政の情報・自分の目で確かめた情報

⬇ ⬇

危険がある・避難指示がある
⇓
指定避難所へ

危険がない・自宅の安全を確認
⇓
在宅避難（避難所の混雑緩和）

避難時の注意点

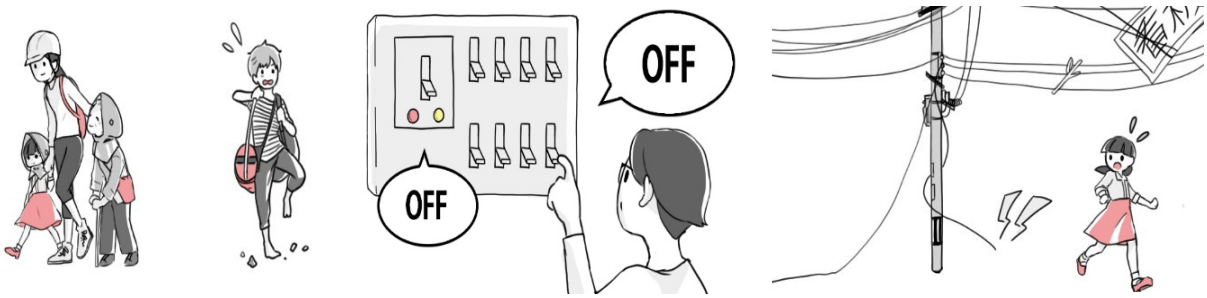
家を出るとき

・火災の原因を作らない → 初期消火が可能なら消火してから避難

・必ずブレーカーを落とす→再通電後、スイッチが入ったままだと火災の恐れあり

・必ずガスの元栓を閉める → ガス管・ガス器具が破損していると復旧時、爆発の恐れあり

・自分の安否メモ、災害伝言板、災害ダイヤルなど → 家族との連絡手段の確保



家の外では

・パニックにならないように注意 → 落ち着いて行動する

・頭上からの落下物に注意 → 割れたガラス、室外機、看板、瓦などの落下の危険性あり

・切れた電線には触らない → 切れたり、垂れ下がった電線にも電気が流れている

・ひびの入った建物や塀に近づかない → 外壁落下、建物倒壊で下敷きになる可能性あり

360度に最新の注意

・道路や側溝の様子に注意 → ひびや陥没、大雨の場合に道路と側溝の区別が難しい
夜間に見通しが悪く転倒や側溝への転落の危険性あり

・津波の危険があるとき → 海や川に近づかない

・火災に遭遇したら → 風向きを考えて離れ、煙を吸い込まないようにする

・冬場の避難 → 寒さで体調を崩しがち、防寒対策を十分にとる